

海況速報

平成元年度 第4号 (No.10)

平成1年10月25日

北海道立水産試験場

9月下旬～10月中旬の海況

8月に比べますと、全道各沿岸域の表面水温は日高海域を除き、ほぼ2～3℃降温しました。日高沿岸域では津軽暖流系水の拡大に伴って8月よりむしろ高くなっています。

表面水温を昨年と同時期と比べますと、道東太平洋海域ではほぼ昨年並の水温ですが、オホーツク海沿岸域では2～3℃、津軽海峡東口から日高海域では1～2℃高くなっています。しかし、日本海側では全般的に昨年より低めで、2℃位低めとなっているところが多くなっています。

また、50～100m深の中・下層水温は全般的に昨年より高めの海域が多く、特に日本海側を中心に対馬暖流系水が影響を及ぼしている全道周辺沿岸域で顕著となっています。

以下に各海域別の特徴点を示しておきます。

〔日本海域〕

50m層での潮境(10～15℃前後)は青森県沖東経139度付近から北上し、利尻・礼文両島を通過して宗谷海峡に達しています。

積丹半島沖に比較的大きな暖水塊がみられます。また、武蔵堆北西域にも暖水塊が認められます。津軽海峡西口では相対的に水温の低い外洋水が海峡内へ引きずりこまれるような特徴的分布を示しています。

〔オホーツク海域〕

50m層では沿岸で最高16℃台を示し、10℃の等温線をはさんで沖合の中冷水との間に最も著しい潮境を形成しています。沖合域ではマイナス水温域が後退し(昨年同時期より分布範囲ははるかに狭い)、網走北沖には50m深で3℃台の暖水塊がみられています。

宗谷岬東沖と紋別沖の表層ではそれぞれ10℃、11℃台の冷水帯が認められます。

〔道東太平洋域〕

北緯41度～41度30分、東経145度以東海域に大きな暖水塊(50m:14～15℃、100m:11～12℃)の一部がみられています。親潮は沿岸部の暖水域(道東沿岸流域)とこの暖水域との間を通過して、北緯41度では東経144度付近を中心に南下しています。

〔道南太平洋域〕

津軽暖流系水は8月より分布範囲を拡大して日高からさらに胆振海域に張り出しています。また、えりも岬の南方では親潮系水と潮境をなして南西下している模様です。なお、恵山沖には顕著な冷水域(50m:11℃、100m:8℃)が認められます。

資料 [観測期間]

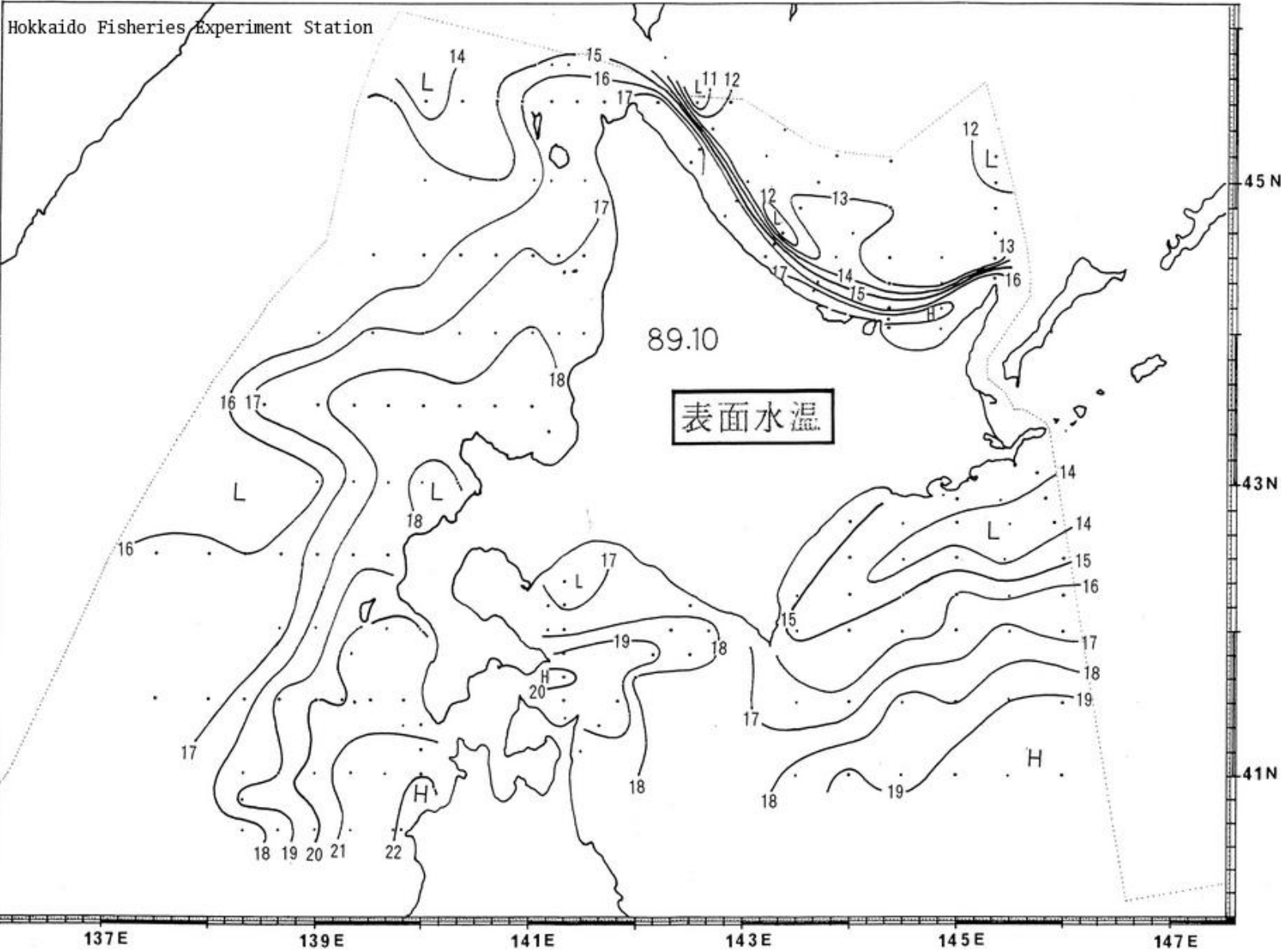
稚内水試(北洋丸)	10.2 - 10.5	(オホーツク海域)
〃	10.11 - 10.13	(道北日本海域)
釧路水試(北辰丸)	9.30 - 10.4	(道東太平洋海域)
函館水試(金星丸)	10.2 - 10.5	(道南 〃)
中央水試(おやしお丸)	10.3 - 10.8	(道央～道南日本海域)

以上の定期観測の外、青森水試(東奥丸)、9.27-10.1の日本海観測資料を使用させていただきました。

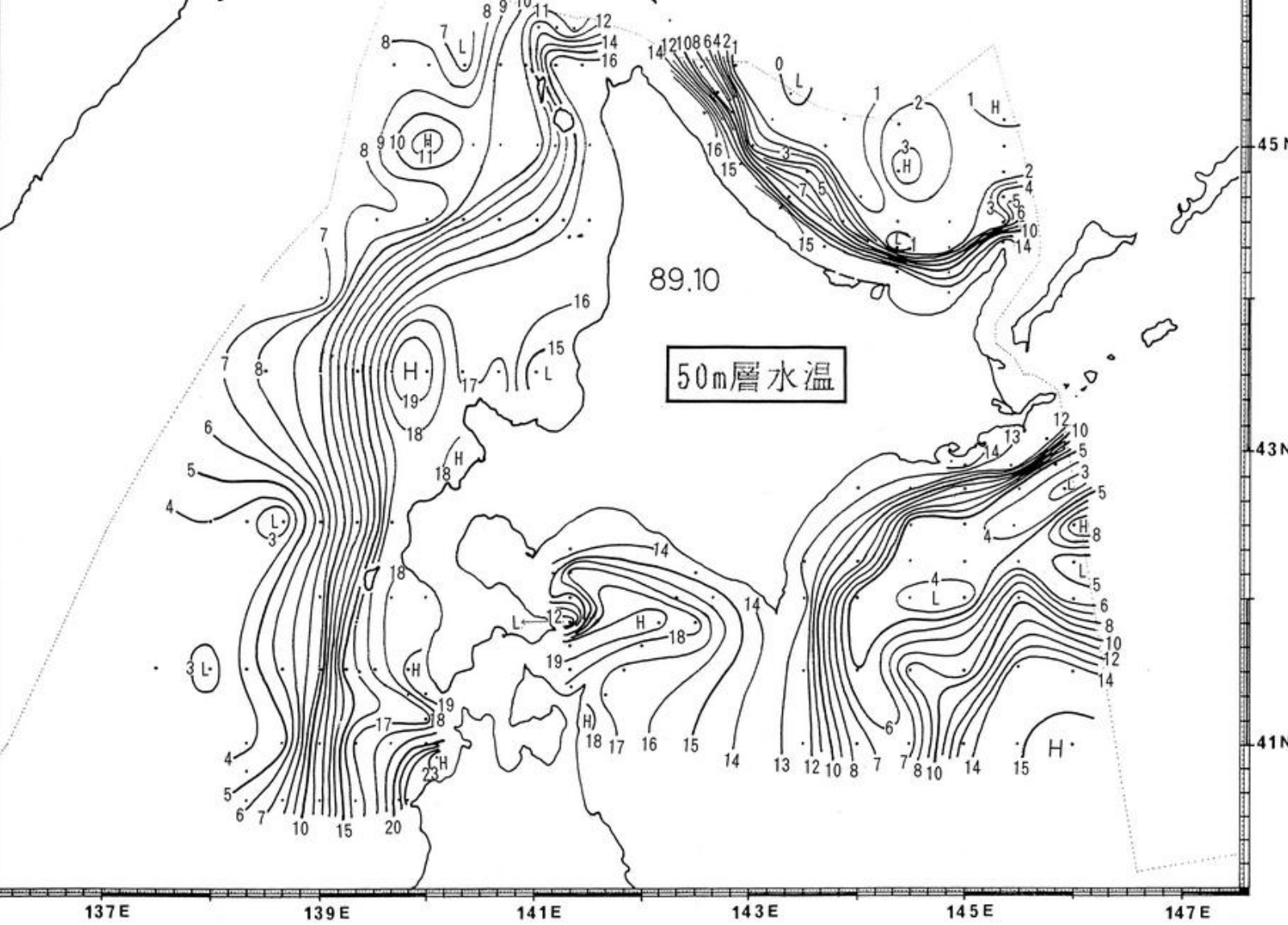
なお、8月9日付「海況速報」第3号(No.9)で空白となっていた道東太平洋海域を含めた修正した海況図を同封しましたので差し替え願います。

(中央水試 海洋部)

Hokkaido Fisheries Experiment Station



Hokkaido Fisheries Experiment Station



Hokkaido Fisheries Experiment Station

